

平成28年度（第1回）新居浜市文化財保護委員会 議事録

- 1 日 時 平成28年8月5日（金）13:30～14:30
- 2 場 所 新居浜市市民文化センター本館1階 郷土資料室「ふるさとラボ」
- 3 出席者 委員7名（委員8名中、1名欠席）、事務局2名
- 4 傍聴者 0名
- 5 議 題 (1) 郷土美術館で展示していた旧中筋太鼓台の保存活用について
(2) 連絡事項等
郷土資料室「ふるさとラボ」について
文化財保護事業等について
文化財めぐりについて
その他
- 6 議事録

議長 それでは、議事に入らせていただきます。なお、ご承知のように、文化財保護委員会は公開でございます。本日は傍聴者はおられませんが、よろしくお願
いします。まず、第1議案の「郷土美術館で展示していた旧中筋太鼓台の保存
活用」について、事務局の方からご提案をお願いいたします。

事務局 議案1の「郷土美術館で展示していた旧中筋太鼓台の保存活用」につつまし
て、事務局よりご説明いたします。

委員の皆様ご存じのとおり、新居浜市役所西隣に位置し、昭和56年の開館
以来35年という長い間、市民の皆様にご親しまれてきた新居浜市立郷土美術館
が、昨年度完成した「あかがねミュージアム」の開館に合わせ、本年3月31
日をもって閉館いたしました。

美術品類については、新しい美術館である「あかがねミュージアム」に全て
移管いたしております。また、郷土館時代から収集してまいりました民具玩具、
岩石鉱石、考古学資料などの郷土資料につつましては、ここ「郷土資料室 ふ
るさとラボ」において、今後の展示活用を行っていく予定としております。

また、それ以外の備品や物品類については、庁内各課や関係機関などへ活用
を呼び掛けているところです。

今回皆様にご審議していただきたい案件は、旧中筋太鼓台の今後の展示活用
ということでございます。郷土美術館内で展示しておりました旧中筋太鼓台
は、中筋自治会から展示用として昭和59年に650万円で購入したものでご
ざいます。その後も、年間を通して本物の太鼓台が見学できる市内唯一の場所
として展示を続けてまいりました。また、平成14年には郷土美術館で太鼓祭

り展を開催し、郷土美術館で開催した歴代の企画展の中でも最も多い、1万3千人を超える多くの方のご来場をいただき、市民の太鼓祭りに対する関心の高さを伺わせるものとなりました。また、太鼓台の維持補修などについては、旧の所有者である中筋自治会の青年部の方にボランティアでのご協力をずっといただいております。

このような中で、昨年7月に「あかがねミュージアム」が開館し、新しく太鼓台ミュージアムも完成し、市内の各地区で実際に使用している太鼓台を交互に展示するという方針で施設を運営しているところでございます。そして、旧中筋太鼓台につきましては、新しい展示場所がまだ決定していないことから、現在もまだ郷土美術館内に保管している状態でございます。郷土美術館の建物については、防災拠点施設建設のための用地確保のため、来年の年明けには解体工事に移る予定でございます。

ご存じのとおり、旧中筋太鼓台の布団締めは県指定無形文化財保持者の山下八郎による力作でありまして、市内に現存する飾り幕の中でも、非常に価値が高いものであるという評価を受けております。ただ、太鼓台自体が展示物としては非常に巨大なものであることから、今後も原形のままの展示というのは非常に難しい状態ですが、飾り幕については、何らかの形で今後も展示活用していきたいという方針で、議会でもそのような答弁を行っております。

本日の文化財保護委員会の中で、太鼓台の今後の活用法を決定するものでは決してございませんが、今後の展示活用方針については、市民の皆様のほか、市議会議員からも多くの意見が寄せられております。教育委員会事務局内部でも改めて協議いたしました。市役所内部の人間だけでなく、市民を代表する立場の方の意見も踏まえた上で今後の活用方針を取りまとめるべきであろうということになりましたため、今回の委員会を開催させていただき、委員の皆様のご意見をお伺いすることといたしました。現時点での事務局案の活用方法については後ほど説明させていただきます。

議長 今回、皆様に主に審議いただく事項の趣旨につきまして事務局のほうからご説明があったわけですが、何かご質問はございませんか。

委員 あかがねミュージアムができたことによって元々郷土美術館にあった物品が二つに分かれ、美術品の絵や日本画はあかがねミュージアムに行き、考古、岩石、民具はこの資料室に来たわけだが、太鼓台というのは文化財の扱いになるのか、それとも美術品的な要素が強かったのか？

事務局 「太鼓会館建設のため、展示用の太鼓台を購入した」という記録があります。太鼓会館とは新居浜の太鼓祭りの文化を象徴するものであり、美術品というよりは文化を物語るものとして買ったのではないかと思います。昭和49年から昭和50年代くらいに太鼓会館建設の要望みたいなものがあつたようです。

委員 今のあかがねミュージアムの太鼓台の意味合いはどういうものか。

事務局 新居浜の文化の象徴である太鼓台を、あかがねミュージアムのメインの展示物として置きたいという思いがありました。実物の太鼓台をどういう形で展示するのがいいのかという点については、市内の各界代表の方の委員会で新居浜

文化を語る部門の中で議論もされました。旧中筋太鼓台を持っていく案もありましたし、市で新たに太鼓台を購入や新調するという案もありましたが、今現在で活用されている実物の太鼓台、自分たちの地域の太鼓台を展示し、地域の方々に見ていただくという結論になりました。現在、新居浜市内には53台ほどの太鼓台がありますので、それを2～3か月ずつ展示するとしても、全部展示し終わるには10年以上かかります。とりあえず1周するまでは、各地域の太鼓台を皆さんに見ていただき、人を呼び込もうという思いもあって、現在に至っています。

委員 趣旨からいったら旧中筋太鼓台があかがねミュージアムに行ってもよかったです。

事務局 やっぱり今生きている太鼓台を皆さんに見ていただきたいということで、それぞれの地域の活躍している太鼓台を交互に展示するという方針になったようです。派遣の順番は太鼓台の委員会の決定に従っています。今は大生院の岸影太鼓台が入っています。

議長 続きまして、事務局から今後の活用方針の案について説明をお願いします。
事務局 太鼓台の展示については、展示物としては非常に巨大であるため、現在のよ
うな組み上げた形での展示を、市内の公共施設の中で行うのは、場所的には不
可能ではないかと考えております。唯一、原形のままで展示可能な場所として、
市庁舎1階ロビーについても検討はしてみたのですが、選挙の期間に期日前投
票所に使用されていることなどもあり、庁内での合意は得られませんでした。

また、元々は大正時代に作られた太鼓台でもあり、老朽化が著しく進んでいることも事実です。市内の縫師さんにも相談いたしました。展示用太鼓台としての役割は既に終わっているが、貴重な太鼓台であることは間違いないので、今後は貴重な郷土資料として活用してほしいという意見をいただいています。このようなことから、太鼓台の解体はやむを得ないということを前提に、飾り幕のみを市内公共施設で展示する方針で、現在は検討しているところ
です。

候補地としては、あかがねミュージアム、市民文化センター中ホール、市庁舎1階ロビーなどを考えております。具体的には太鼓台を解体した後、布団締め、上幕、高欄幕などの飾り幕を収納展示する展示ケースを製作し、設置したいと考えております。

太鼓台の飾り幕には物語性があるため、分散しない形での展示を行ってほしいという意見もございますことから、分散しないことを前提に考えますと、市民文化センター別館内の、別紙の位置であれば、同じホール内で全て展示できるため、分散はしていないという解釈になろうかと考えております。ただ、文化センター別館となると、来る方の数も限られることから、せっかくの価値の高い飾り幕をより多くの方に見ていただくということを考慮した場合、市庁舎ロビーに、太鼓台原形のままだは無理でも、幕だけでも展示できないかということ、改めて検討するべきかとも考えております。ただ、市庁舎ロビーの場合は面積的に、分散させずに全ての幕を一堂に展示するというのは難しいと考え

ております。なお、解体した場合は幕以外のかき棒、台場などが残りますが、これらについては、あかがねミュージアム内の「太鼓台ミュージアム」で活用する方法を、今後あかがねミュージアムと協議する予定としております。解体作業については中筋自治会青年部のご協力をいただける見込みです。

議長

解体せずに展示するのは物理的に無理だと思われま。解体して展示する場合に「どういう方法で」「どこに展示するか」といったようなことにつきまして、皆さんのご意見をいただきたいと思いま。

委員

中筋の人から要望みたいなものはないのか。

事務局

中筋自治会とも何度も話をしたのですが、実際のところあまり要望はありません。「売ったものだから市で勝手にやってくれていい」とのことです。「大事にしてください」という漠然とした要望はいただいています、「絶対どこに展示しろ」とか、そういう要望は一切いただいておらず、市に一任されているような状態です。自治会で解体や運搬などのお手伝いはしていただけることになっています。

委員

文化財として保存することを考えたら、金糸とかは紫外線などで劣化して白っぽくなっていく。既にかなり白っぽくはなっているが、それをどうするのか。例えば展示場所に紫外線が直接当たるとますます劣化することも考えられるので、例えばケースに入れるとか、金糸替えをすとかいうことについてはどう考えているのか。

事務局

縫師さんと話をした中では「既に劣化しつつしている」というご説明をいただきました。展示する場合はガラスかアクリルで覆いをしたケースを作って展示するような提案をもらっています。仮にどこか目立たないところで保管するのであれば、あまり湿気がこないようにしてください、という助言をいただきました。

委員

太鼓台を解体する必要があるというのはよくわかったが、文化財としてとらえるのなら、そのパーツ一つひとつに意味を持たせていく必要がある。あかがねミュージアムに次から次へと太鼓台を入れるというのは地域の要望が強かったのではないか。大きくとらえるとあかがねミュージアムも文化であるので、こういう布団締めとかのパーツの意味を展示の中で探してほしい。あかがねミュージアムに写真はあるか。

事務局

太鼓台を展示している地域の写真はあつたと思いま。現物の太鼓台にはそれぞれの歴史があるので、大正時代や昭和時代に新調したときの写真があつたり、それぞれのハッピーがあつたり、その地域の太鼓台を説明しているような文章もあります。統一した様式のパンフレットを太鼓台の入替のときに作っていますが、中身はそれぞれの太鼓台の歴史とかになっています。例えば田の上太鼓台を展示しているときには場内に田の上のハッピーをかざり田の上太鼓台の写真飾る、みたいな感じで、展示室が田の上一色になるようなイメージです。

委員

太鼓台の面の意味についての解説はされていないのか。

事務局

自治会によってはしているところもあると思いま。太鼓台によっては上幕・高欄幕の4面に物語性があるみたいなので、一つひとつの幕の絵柄の解説

もしているようです。

委員

一般的に考えた場合、旧中筋太鼓台はあかがねミュージアムにあるのが一番良いと思う。個々の太鼓台は個々の太鼓台としての特色がそれぞれあるのだろうが、その共通性については中筋太鼓台を道具として、パーツごとにきちっと解説するというのも文化財活用として一つの方法かと思う。

議長

他にご意見はございませんか。

委員

今の時代、文化財を理解してもらおうアピールをしていくことはとても必要なことだ。有効にアピールするためには人がたくさん集まる場所、見てくれるようなところで十分な解説をしていくということが必要。幕をバラバラにして色々なところで展示するよりは、なるべく分散しないよう、あかがねミュージアムのようなところで、壁面使用とかも考えながら物語性がわかるような展示の仕方をすれば、色々な方が来て、見て、理解してくださるんじゃないかと考えている。県の歴史文化博物館にも太鼓台が展示されてあるが、展示の方法などについても少し研究をしてみるといい。

議長

宇和の歴史文化博物館では解体せずに中へ展示していますが、新居浜にああいう場所がありますか？

事務局

マイントピアに子ども太鼓台があるくらいです。

委員

太鼓台の内側の骨組みも保存をして活用したいという方向であるという理解でよいか。あかがねミュージアムに持っていき、内側の骨組みも含めて保管するという方向で考えているのか。今は外側の話ばかりしているが、有形の民俗文化財には内側の構造に非常に大事なものがある。飾り幕がきれいに見えるのはよくわかるし、あれは意味があるのだと思うが、あれだけの大きな屋台をもたせる中身というのはどういう構造をしているのかということに興味を持つ人はいると思う。そういうのを含めた展示というのは博物館展示の中ではありえる話。内側の見えない部分を活用しようという方向づけやアイデアを市では持っているのか。

事務局

あかがねミュージアムから提案をいただいています。現在太鼓台を展示している部分の、入って左手のあたりに少し余裕の空間がありますが、そこに旧中筋太鼓台のかき棒や屋台組とかをそのまま移設して、きちんとした管理の下で、子どもたちに実際にあそこの台に上がってもらって体験をするというものです。どういうふうな形でやるのか、どれくらいの経費がいるか、ということまではまだ詰めきれていません。また、あかがねミュージアムにはそれぞれの地域の太鼓台が順番に入りますが、お祭りの時期には何もなくなってしまいます。その時期は個人で面を持ってる方からお借りして展示するというのもあったようです。そのときのメイン展示として旧中筋太鼓台のかき棒や台座に乗ってもらおうという展開も可能だと思っています。

委員

祭り前の忙しい時期に、展示替えをするのに必要な人員が十分確保できるのかという問題もあるかと思う。例えば太鼓台の上に乗るということであれば、劣化が進んでいる太鼓台にどのような補強が必要となるのか、予算がどれくらいかかるのか、というのもあるので一概にこういう意見ですとは言いきれない

が、その提案は活用の仕方として非常にいいことだと思う。

議長

他はいかがでしょうか。事務局のほうから候補としてあかがねミュージアム、市民文化センター中ホール、それから市庁舎1階というような提案があったのですが、新居浜のシンボルや文化財としての有効性をアピールするには、あかがねミュージアムがいいのではないだろうか。しかも、分散せずによくわかるように、太鼓台は劣化していくので保存方法についても考慮する必要がある。幕とかの外のものだけでなく、内側の構造や骨格もできたら展示したほうがいい、という意見が出たようですけど、文化財保護委員の意見としてよろしいでしょうか。

委員

幕については、現在使用中の太鼓台を置いて、その横に旧中筋太鼓台の幕を置くというのは、ピカピカの幕と比べられて劣化の状態が目立つと思うのでどうかと思う。さっき言っていた「体験できる」というのはすごくいいなと思った。中学生は太鼓が好きでも触ってはいけないことになっているが、あそこに行ったら太鼓台の台場や天幕に上がれるということなら、子どもたちは喜んで行くだらう。もちろん安全管理はしなければならないが。

委員

劣化は文化財としてはいたしかたない。幕の修復みたいなのができたらいいのだがお金がかかる。

事務局

縫師さんとも相談しましたが、山下八郎の貴重な布団締めということに価値があり、縫い替えまでしたら「山下の太鼓台」とは言えなくなるので文化財としての価値は落ちるとのことでした。確かに劣化は進んでいるが、布団締め自体に価値があるので、大事にしてほしいという助言をいただきました。

委員

展示のところに「山下八郎縫師」というのがしっかり書かれていたら、見る人が見たら価値はわかると思う。新居浜市外の人が見たら見劣りすると感じるかもしれない

議長

見劣りすることに文化財としての価値があるという考え方もあります。

委員

高知の桂浜の龍馬像。龍馬博をしていたときに、台の上に上がって龍馬と同じ目の高さで見てみようとかいう試みがあった。太鼓台も立体で高さもあるものなので、見る位置によっては「やっぱり違うな」というようなことも考えられる。ただ見上げるだけよりは、見る位置を変えると新しい発見も出てくると思う。展示する際にはそういう色々な見え方ができるよう配置するなどのアイデアがあったらいいと思う。

議長

文化財保護委員の意見が一応まとまりましたので、これをまた色々な機会でも文化財保護委員はこのように考えているということを紹介していただきたいと思います。

事務局

本日の意見でいただきましたご意見を踏まえ、今後市の内部で検討し、方針が確定しましたら議会等関係各所への説明を行い、今後の事務を進めていきたいと思います。

議長

続きまして、連絡事項について事務局から説明をお願いします。

事務局

それでは続いて、連絡事項について説明させていただきます。
まず、郷土資料室「ふるさとラボ」についてでございます。

先ほども申しましたとおり、郷土美術館が本年3月31日をもって閉館し、これまで主に郷土美術館3階で常設展示してきた、美術品以外の、考古学資料、民具玩具、岩石鉱石などの郷土資料について、展示場所を確保する必要性が生じてまいりました。

展示場所につきましても色々と案がございましたが、市民文化センター本館内に事務所を置いておりました「まちづくり協働オフィス」が、文化センター別館内に移転するという話になりましたため、移転した後に空いた部屋を改修し、新たな資料室を整備することといたしました。

今回の資料室の整備は、市と愛媛大学との連携協定にもとづき、愛媛大学に展示計画の策定を依頼いたしました。展示学が専門で、愛媛大学ミュージアムを監修しておられる徳田明仁准教授に全面的なご協力をいただけることとなりましたため、展示計画策定を愛媛大学への受託研究として依頼し、愛媛大学からいただいた展示計画、施設改修計画に基づいて、改修工事、展示棚等の製作委託工事を発注し、本年3月に建築工事が完成したところでございます。また、個別の物品の展示計画については、考古学資料については山内隆夫文化財保護委員に依頼、岩石鉱石などの自然科学資料については、「石の会」の会員でもある、学校給食課の木村係長に依頼いたしました。民具玩具については、郷土美術館に在籍していた職員のほうで作成いたしました。

その後、常駐職員を1名任用し、この7月21日にオープンしたばかりでございます。愛媛新聞やケーブルテレビでも取り上げてくださり、開館以来100名を超える入館者数となっております。

徳田准教授からは「郷土資料に囲まれて市民が語り合うサロン」というコンセプトをいただいております。従来型の展示だけにとどまらず、今後関係機関と連携し、学級講座やワークショップなども実施したいと考えております。現在は月曜日から金曜日の午前10時から午後4時までの開館時間となっております。施設を運営していくための十分な人員体制ができておらず、運営方法についても手探りの部分が多いのですが、せつかくの施設でございますので、また文化財保護委員の皆様にもご助言、ご指導をいただく中で進めていきたいと思っておりますので、また今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

続きまして、文化財補助事業等についてでございます。

本年度の文化財関係の事業といたしましては、県指定史跡の「別子銅山・口屋松」の保存事業を実施しております。年間を通じての消毒や土壌改良、剪定などの保存業務を愛媛庭園さんに委託しており、費用は442,800円となっております。

その他、指定文化財保護にかかる補助といたしまして、市天然記念物「アッケシソウ」の保護活動を行っていただいている個人に対する補助を行っており、今年度は63,000円の補助の予定となっております。

また、今年度は明正寺にございます市指定文化財「深尾権太輔の墓」の保全事業を実施いたしました。深尾権太輔の墓の敷地内は、これまで未舗装の土のままであり、雨が降った際には見学される方へ非常にご負担をおかけしていた

のですが、今回、敷地内をコンクリートで埋めるとともに、安全対策のため、崩れかけていた石垣の目地埋めを行いました。これにつきましては既に工事が終了しており、216,000円を補助金を明正寺に支出いたしました。

また、多喜浜塩田発展の祖であります天野喜四郎が居住していた久貢屋敷については、ご子孫の方が地域の憩いの場として敷地内の樹木剪定や草引きなどを行っていただいているのですが、今年度、市指定史跡「久貢屋敷」保全事業といたしまして、所有者の方へ補助を行っております。支出額は311,000円の予定となっております。

続きまして、平成28年度文化財めぐりについてでございます。

これは、バスを借り上げて市外の重要文化財などを見学し、文化財保護に対する理解を深めるという目的で、毎年実施しているものでございます。昨年度は世界遺産姫路城を訪問いたしましたが、本年は、「村上海賊」が日本遺産としてちょうど認定されたばかりであることから、「村上海賊の本拠地 芸予諸島を巡る」というテーマで、因島、大三島、大島などの文化財や歴史遺産を見学するというので、10月25日火曜日に実施を予定しております。こちらにつきましては、9月号の市政だより、公民館だよりで市民の方へのお知らせを行う予定としております。例年、希望者が多い事業ですので、抽選で参加者を決定しているような状態ですが、今年もぜひ多くの方にご応募いただけたらと考えております。

議長 ありがとうございます。「ふるさとラボ」とはここですね。私も今日が初めてですが、立派な施設ができていてビックリしました。ふるさとラボの設置過程について、文化財補助事業の4件のこと、それと文化財めぐりについて説明があったのですが、何かご意見ご質問はございませんか。

委員 資料室に1名を新規で採用されたということですが、学芸員でしょうか。行政職員でしょうか。

事務局 学芸員ではございません。行政の臨時職員という身分です。学芸員の資格を持っているのが望ましいという形で公募したのですが、実際には一般の臨時職員が1名ということで対応しております。

議長 ありがとうございます。これで本日予定していた議題は全て終了いたしました。最初に言いましたように、約3年半ぶりの文化財保護委員会でございますので、かなり時間も空いております。この機会に何かご意見がございましたらよろしく申し上げます。

委員 新居浜市内の色々な文化財について、年に1回くらい現状を確認したらどうかと思う。木もだいぶ折れたりしているし、木造建築にしても色々な状態のものがある。お金が必要になるかもしれないが。

議長 特に植物分野ではそういうことが大事だと思います、枝が折れたり切られたりしております。他はございませんか。

事務局 今日の会の中で、委員の皆様はそれぞれに専門の分野があり、非常にお詳しい方がたくさんいらっしゃるかと改めて思いました。この郷土資料室「ふるさとラボ」ですが、皆さんのお力をお借りして、簡単な植物についてお話をしても

らう場を持つとか、子どもを夏休みに集めて教室を開くとか、皆さんが興味のある世界遺産についてのお話をしていただくなど、気楽な感じで話をできるような場所になりたいと思います。今後は一層連絡を密にさせていただいて「こんなことをしたいんだけどどうしたらいいでしょうか？」みたいなご相談から始められたらと思います。お忙しいとは思いますがご協力をよろしく願います。

議長

他にございませんか。それではこれで議事を終わらせていただきます。大変長時間ご審議ありがとうございました。